



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 (2) 5775

会長	三井健助
幹事	山口篤之助
会報委員	新穂光一郎
	鷺田幸雄
	安藤定助
	嶺光吉

No., 999

1979.3.20 (火) (晴) No.,36

ウィンター紹介

佐藤五右門君	請負	齋藤新作君	建築設計	} 温橋 R.C
齋藤順君	日本酒小売			
菅原年雄君	建設	大川俊一君	海上保険	} 鶴岡西 R.C
半田茂弥君	石油配布	佐藤成生君	金物小売	

◆ゲスト紹介

酒井忠明氏

会長・幹事報告

山口篤之助君

新会員の推薦に関する氏名発表

熨斗義文 水沢化学工業(株)
水沢工場長(化学工業)

石原淳 荘内神社宮司(宗教)

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

致道博物館の裏の庭が数年前に名勝指定を受けました。その時この庭を発見してくれた田中泰阿弥という有名な庭師がおりまして、この人が荒れ放題の庭を見て「これは昔の原型がそのまま残っている」ということで復元することに発展したわけです。

その田中泰阿弥さんがよく言われたことには「ここの殿様は代々、庭造りを好きな人がいなかったのが幸いした。庭づくりを好きな人がいたら、いろんな風になおくりまわして、この庭を台なしにしてしまったであらう。」と原型のまま残ったことを賞めちぎられた。

私の祖父も父もそうですが鳥を獲ったり、魚を釣ったりすることばかりで、凡そ庭いじりなどという雅やかさなどありませんでした。ましてお茶とか謡曲など…。私の祖父がドイツから帰ってから専ら猟などをしてましたが、ある日本間家から茶席に招かれた。行く前に祖父は茶室で床の間を見て、掛けてあるものがあったら賞めるもんだと人に教えられ、祖父は教えられた通りに床の間の前で「や、これ、きびし。」とやった。現在では「きびし」とあまり使わないが、これは士族言葉で賞め言葉である。主客がいったから付け人も次々「や、これ、きびし」「や、これ、きびし」と相成ったという笑い話がある。

余談に流れたが私の父も猟をよくやっていた。私は小学校の5年生頃に空気銃を買ってもらったが、毎日屋敷の中で雀などを撃っては喜んでた。父が猟から帰ってくるとよく鉄砲を戸の口でわたされた。それをガン・キャビネットまで運ばされるのであるが、それが何より嬉しかった。それから鉄砲の掃除などもさせられるようになったが、楽しく、その間に鉄砲の持ち方、鉄砲の取り扱い、分解などについても自然と覚えるようになった。

今では講習会などで勉強をして免許を得るようになるが、昔は無免許でも田圃で悠々と鳥を撃ったものです。煙草のみが成人前にいたずらして喫煙し、成人の時には立派な煙草のみになっているというのと同じである。中学の入学記念にもう少し良い空気銃を買った。その空気銃はライフルが入っている威力ある銃でした。面白くて、面白くて家の木の赤い実をたべている鳥を見てはよく撃って学校もさぼるようになってしまった。

それで母を大変心配させてしまった。そういうことで鉄砲をやりだしてからは、かれこれ何十年にもなります。しかし現在の狩猟は非常に世智辛くなりました。自然保護とか何とかで、鳥が減るのはハンターが悪いからでとよくいわれますが、逆にあまりに保護しますと、その被害も馬鹿にならない。宮城県の伊豆沼の例などからして、こうした問題は或程度撃ちながら、或程度は保護していくというのでなければ、いかんのではないかと思います。

最近、公園の堀に鴨が集まるようになりましたが、風景としても非常に嬉し

く思っています。あそこには昔は鴨はこなかった。今では「禁猟区」だということを知って集まるのでしょうか。だんだんと集まり安全だということで群をなしてくる。そして人が側を通っても逃げません。しかし、我々ハンターが通ると、すぐ警戒するようです。どうも、我々の眼つきが悪いためなのでしょう。

確かに鳥は殺気を感じて去っていくようです。田圃で鉄砲に弾をこめても鳥を撃つ気のないときは、鳥は側まで飛んできます。しかし、今度来たら撃つてやろうと思った時には不思議に近づいて来ないものです。

ところでハンターも随分とふえたものです。鶴岡で700人、酒田もあわせると凡そ2,000人位になるのでしょうか。昔の狩猟はのんびりしてよかった。あの11月末から12月にかけての脂がのった冬至鴨の鴨鍋は最高である。脂が鍋の表面一杯に浮いて湯気が出ない程になるのです。よく鉄砲と釣りとどちらが面白いかといわれるが、2つとも全然趣きが違うのでいささか判断に苦しむのであるが、鉄砲の方は勝負がはっきりしている。獲物がいなければいけないで駄目だ。釣の方は海に魚がいるやらどうかは中々わからない。長時間かけても結果的に不漁の場合もある。私にとってはどちらかというところ6：4で猟ということになる。

さて、釣りの方も狩猟の方も大体、自分のとった自慢話の半分にはホラがある。又、ホラがないと面白くない。或程度の話に尾鰭をつけるから話が面白くなるのである。しかし釣、猟ともホラ話には罪がなくていいものだと思う。釣も昔と大分違って参りました。第一竿も今ではガラスなどでつくられたものが多くなって庄内竿は段々と無くなって参りました。しかし何と云っても庄内竿が一番だと思っています。

庄内竿のつくり方にはいろいろあるそうですが、昔、陶山運平、丹羽庄右工門、それから上林義勝の名人がおりました。昭和になりましては山内善作など有名であります。ご承知のとおり他の地方のは何本か合せてつくられますが、庄内竿は苦竹といって飽くまでのベ竿一本竿です。しかも「根っこ」がついている。根で釣るわけではないのですが、竿の見立てというところから「根っこ」が大事なのです。

張りのあるピンと腰が強いのが名竿たる所以です。私の家に丹羽庄右工門作の竿がありますが、4間ちょっとの竿で下磯で荒波で黒鯛釣りをする時など、最高の竿だったようです。昔、菅臥牛のもっていた竿なのですが、持ってみて腰のすわり方、何か名刀をもった感触です。

先に博物館に刀剣蒐集家のドクター・コンプトンさんがアメリカから来られた時、庄内竿を見せたら、これは刀と同じ感じがするといっておられたが流石と思った次第です。

ところで釣りが盛んになる一方、釣り人のマナーが地に落ちて来ているのは

嘆かわしい。

昔、濡れた岩に出る時は10波数えろ。10波に1波は大波がくる場合があるということである。「わらじ」を履け。腰に「ハケゴ」をつけるな。かぶり笠をかぶるな。といろんな教訓があったものです。釣りは悠々として楽しむべし。人の頭ごしに竿を出したりしている最近の釣り人は正に戒むべしです。釣れなくともいい。ゆっくりと釣りたいものだ。鶴岡の釣り人は流石に違うものだといわれたいものです。

委員会報告

◎20周年記念行事中間報告

20周年記念実行委員長 佐藤 忠君

(1) 20周年記念広告掲載

(庄内日報) 会員名記載 1人 負担金 2,000円

(2) 姉妹クラブ友好訪問者

台中港区クラブ 21名

鹿児島クラブ 4名

これに対する土産代会員負担 1人 2,000円

出席報告

出席委員会

本日の出席	会員数	70名	欠席者	安藤君、飯白君、石黒、玉城君、秋野君、森田君、板垣(広)君、佐藤(昇)君、佐藤(友)君、佐藤(正)君、笹原君、菅原君、津田君、金沢君、野村君、高岸君、藤川君
	出席数	52名		
	出席率	75.71%		
前回の出席	前回出席率	81.43%	メア 1ツ クラブ	玉城君、中江君、斎藤(栄)君、佐藤(順)君、鷺田君、富樫君、諸橋君一鶴岡西R.C
	修正出席数	64名		
	確定出席率	91.43%		